

第4学年 社会科 学習指導案

1. 小単元名『災害からまちを守るために』

(教科書：『小学社会 3・4 下』 p. 20～35／学習指導要領：内容（4）ア、イ）

2. 小単元の目標

地域社会における火災の防止について、消防署は地域の人々と協力して、火災の防止に努めていること、火災の際には警察署や消防団などの諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。

3. 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
・火災や人々の安全を守る消防署の工夫や努力に関心をもち、施設、訓練、体制などを意欲的に見学したり調査したりしている。 ・学習したことを生かして、安全を守るために自分が協力できることに取り組もうとしている。	・人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え、表現している。 ・火災から人々の安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を、人々の生活と関連付けて考え、適切に表現している。	・消防署の施設を見学したり資料を活用したりして、地域における火災防止の活動について必要な情報を集め、読み取っている。 ・火災防止の活動について調べたことを作品などにまとめている。	・人々の安全を守るための関係機関の働きと、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。 ・関係機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

児童は、地域の防災について、地域の消防団の取り組みや、何よりも家庭での防災への心がけが肝要であることにまで目が向きにくい。

本小単元では、地域の安全を守るための関係機関の組織的な連携や協力のあり方を表面的に捉えるのみではなく、防災に関わっている人の思いや願いに焦点をあてることで、「災害から守ってもらう」という消極的な考え方ではなく、「自分は何ができるのか」という、より積極的に社会に関わろうとする態度や姿勢を児童に育んでいくことを目指すことが重要であると考えます。

(2) 教材について

市の防火体制は一見万全に見える。しかし、実は防火に従事する人の数は多くない現実がある。

市の消防署の方の話によると、職員数も団員数も理想とされる人数に至っていないという。また、消防団員は高齢化が進み、このままだと地域の防災活動に支障が出るという。

本学習材（市の防火体制）を通して、①市の各消防署では、緊急を要する消火活動のために様々な工夫を行っていること、②通信指令室を設置することで諸機関が連携・協力して迅速に消火活動を行う体制も整えていること、③市の広域消防組合消防本部は消火作業だけでなく、市内の建物や地域の防火施設の設置や指導、防火の広報活動にも力を入れていること、④地域の消防団も、消防署員に協力し消火作業を行うだけでなく、地域の防災を支える働きをしていること、を学習する。

消防団をはじめとする地域の人々が、見えないところで暮らしの安全を支えていることに着目させる、地域の一員として自分たちにできることを考えさせるなど、社会的な見方や考え方を育てることに適した学習材である。

（３）指導上の工夫・留意点

本小単元は、防災の中心を担う消防の取り組みを見学などで学習したのち、児童の身のまわりの学校や地域、家庭に目を向けさせていくことが重要である。

指導を進めるにあたって、児童が関心をもち、考えを深めることができるように、実物・映像資料・写真資料・実際に地域の防災に従事している方のインタビューなど、資料を工夫しながら学習を進めていきたい。他にも、児童へのアンケート、家庭の防災への意識など、児童や家庭へと意図的に学習を結び付けながら進めるようにしたい。

付け加えて、本小単元は、グラフ、図、表などの多様な資料を取り扱うことに適したものとなっている。資料から情報を取り出す力、取り出した情報から資料を読み取る力を高めていくことについても重要である。

５．小単元の指導計画（総時数 13 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① （つかむ）	写真やグラフから、地域の安全を守る対策に関心をもつことができるようにする。	○火事の写真やグラフを見て、火事の様子や火事の原因などについて気づいたことを話し合う。 ・炎や煙が出ていること ・消防自動車が来ていること ・消防士が火を消していること ・火事の原因はいろいろあること ・市では年に○件の火災が起きていること ○資料をもとに、火事とはどのようなものかとらえる。 ・命や財産、思い出を失うもの ・防火や消火の取り組みがあること	◎火事の様子（写真） ◎平成○年に起きた市の火事の件数（グラフ） ◎市の火事の原因（表） ◇火事について、実際に被害に遭ったことのある児童もいる可能性があるので、配慮するようにする。 ◆発言やノートの記述から「地域の安全を守る対策について関心をもつことができたか」を評価する。 （関・意・態／発言、ノート）

② (つかむ)	調べたいことをもとに学習問題をつくり、消防署見学の計画を立てることができるようにする。	○子どもたちが調べたいことについて具体的な視点をもつ。 ○調べたいことをもとに学習問題をつくる。 小単元の学習問題 火事からくらしを守り、また、火事をおこさないために、だれが、どのような取り組みをしているのだろう。 ○消防署見学の計画を立てる。 ・見て調べたいこと ・聞いて調べること	◎市の火事の様子（写真） ◆ノートの記述から、「火事を防ぐ工夫や努力について調べたいことをもとに学習問題をつくり、消防署見学の計画を立てることができたか」を評価する。 （思・判・表／ノート）
③ ④ ⑤ (調べる)	消防署を見学し、わかったことを見学ノートに記録できるようにする。	○消防署の施設や消防車などを見学する。 ○消防署で働く人から、早く、安全に消火するための工夫や努力について聞き取りを行う。	◎見学ノート ◆見学ノートの記述から、「消防署の施設を見学し、地域における火災防止の活動について必要な情報を集めることができたか」を評価する。 （技／見学ノート）
⑥ (調べる)	消防署やそこで働く人々の工夫や努力を、火事を早く消すという目的と結びつけながらまとめることができるようにする。	○消防署を見学して、発見したこと、気づいたこと、わかったことを発表し合い、内容別に整理してまとめる。 ・いつでも素早く出動するための工夫 ・確実、安全に消火するための工夫	◎消防自動車の様子（写真） ◎消防士の一日の勤務の様子（表） ◎防火服や消火作業で使う道具（写真） ◎消火訓練や救助訓練の様子（写真） ◎家の燃える速さ（図） ◆ノートの記述から、「消防署やそこで働く人々の工夫や努力を、早く消すという目的と結びつけながらまとめることができたか」を評価する。 （知・理／ノート）
⑦ (調べる)	消火活動のイラストから関係機関の協力体制についてとらえることができるようにする。	○消火活動のイラストを見て、消防署以外の機関の活動をとらえる。 ・警察の働き ・救急隊員の働き ・ガス会社の連携 ・第一出動と第二出動	◎消火活動の現場のイラスト ◆ノートの記述から、「火災発生時の関係機関の協力体制についてとらえることができたか」を評価する。 （知・理／ノート）

⑧ (調べる)	火事が発生した際の連絡体制について調べ、通信指令室がなぜ必要かを考えることができるようにする。	○119番通報をするとまず通信司令室につながり、さらにその次の関係機関に連絡がいくことを調べ、なぜ通信指令室という連絡体制がつくられているかを考える。 ・119番に電話すると、通信司令室につながる ・通信司令室から、現場に近い消防署に連絡がいく ・警察署や病院など、他のところにも連絡がいく	◎119 番による緊急連絡体制の図 ◎119 番のかけ方(図) ◎通信指令室の必要性(文章) ◆ノートの記述から、「火事が発生した際の連絡体制について調べ、通信指令室がなぜ必要かを考えることができたか」を評価する。 (思・判・表／ノート)
⑨ ⑩ (調べる)	学校や地域の消防施設を調べ、防火への取り組み方についてとらえることができるようにする。	○学校やまちの消防施設を探して、学校の見取り図や白地図に記し、それを見て気づいたことや考えたことを話し合う。 ・学校には役割に応じた消防施設が数多く計画的に設置されている ・消火器や消火栓がたくさんある ・防火施設は、地域全体にまんべんなく、計画的に配備されている	◎学校の見取り図 ◎地域の白地図 ◎消火栓や防火水槽の写真 ◆ノートの記述や白地図から「学校や地域の防災施設を調べ、地域の防火の取り組みについてとらえることができたか。」を評価する。 (知・理／ノート)
⑪ (調べる) 【本時】	消防団の活動について調べ、地域の防災のために活動している人々の思いについて考えることができるようにする。	○写真や消防団の方の話などの資料から、消防団員と消防署員の活動の共通点や相違点、消防団と消防署が協力して火災に備えていることを調べ、地域の防災のために活動している人々の思いについて考える。 ・消防団の人たちは消防署員と協力して消火や救助の活動をしている ・消防団の人たちは「自分たちの地域を、自分たちで守る」という思いで活動している	◎消防団の服 ◎消防団の屯所や団員の写真 ◎消防署員と消防団員の一日の暮らしを比較した表 ◎消防団の方のインタビュー ◆ノートの記述から、「消防団の人々の活動や自分の地域を自分たちで守りたいという思いについて考えることができたか」を評価する。 (思・判・表／ノート)

⑫ ⑬ (まとめる)	学習を振り返り、リーフレットを作成できるようにする。	○これまでの学習を振り返り、消防活動の工夫や努力を話し合う。 ○火事を起こさないために自分にできることを考える。 ○学習したことを広げる方法を考える。 ○伝えたいことの視点を明確にして、リーフレットを作成する。	◎消防署員の写真 ◎消防団の人の写真 ◆作成したリーフレットから「自分たちのくらしを守る消防署や地域の消防団の人々の工夫や努力についてまとめることができたか」を評価する。 (技／見学ノート)
------------------	----------------------------	--	--

6. 本時の指導（第11時）

（1）本時のねらい

写真や消防団の方の話などの資料から、消防団員と消防署員の活動の共通点や相違点、消防団と消防署が協力して火災に備えていることを調べ、地域の防災のために活動している人々の思いについて考えることができるようにする。

（2）本時の展開

時配	○学習活動 T：発問 C：児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
問題の把握 (7分)	○消防団の服や、消防団の屯所、団員の写真、地図を見て、学習問題を設定する。 T：消防の人から服を借りてきました。 C：あまり見たことない。消防署の人と違うよ。 C：消防団の人の服だよ。 T：消防団は市内にこのぐらいあります。(地図を提示) C：消防署よりも多いね。 C：消防団は消防署の人と同じ仕事をしているのかな？ 消防団の人は、どんな仕事をしているのだろう。	◎消防団の服（実物） ◎消防団の屯所の様子（写真） ◎消防署の様子（写真） ◎市内の消防団の数と場所（地図） ◇消防団の服を見せて、消防団の存在に気づかせたい。 ◇消防団の場所を示した地図を提示し、消防団が市内に数多く設置されていることをとらえさせる。 ◇問題をより身近に意識化するために、身近な消防団の屯所や団員の方の写真を提示し、消防署の人との違いを考えながら学習問題を設定する。

問題の追究（33分）	○消防団の人が、どんな仕事をしているのかを予想する。 T：消防団の人がどのような仕事をしているのかを予想しよう。 【考えられる児童の予想】 ・消火活動をする。 ・救助活動をする。 ・パトロールをする。 ・火の用心の呼びかけをする。 ・訓練や点検をする。 ○消防団と消防署の仕事の共通点や相違点をとらえる。 T：消防団の人は、消防署の人と比べてどのような仕事をしていますか。 C：消防署の人と一緒に協力して消火や救助の手伝いをしているんだね。 C：集まって訓練をしたりしているね。 C：火の用心の呼びかけもしているよ。 C：地域の消火栓の雪かきもしているんだね。大変そうだなあ。 C：消防署と似ている仕事も多いね。違うところはどこかな。 ○消防署員と消防団の方の一日の勤務表の比較から、消防団員の方が自分の仕事の他に活動していることをとらえる。 T：消防団の人の一日の暮らしの様子から、消防団の人と消防署の人は何が違うといえますか？ C：消防団の人は、日中に自分の仕事もしているよ。 C：自分の仕事の後に集まって訓練をしているよ。疲れるんじゃないかな。 C：夜休んでいるときに、火事が起きたら出動しているよ。消防署の人と同じだね。 C：自分の仕事もしているのに、消防署の人の仕事もしているなんて、大変そうだね。どうして消防団が必要なのかな。 ○消防団がなぜ必要なのか考え、消防団の役割をとらえる。 T：消防団の人は、自分の仕事をしながら、消防署の人と協力して仕事をしています。自分の仕事をしながらも活動しないといけないのはなぜでしょう？消防団があってよいことについて考え合いましょう。	○消防団の主な活動（表） ○消火栓の雪かきの様子（写真） ○消防署員と消防団の一日の様子（勤務表） ◇消防団の方の話をもとにした資料から、火事のときに消防署の人と協力して消火活動を行うこと、訓練をしていることなど、消防署の人と共通した活動を行っていることをとらえさせたい。また、地域の消火栓の雪かきをなどの日常的な活動の努力にも目を向けさせたい。 ◇消防署員の勤務表と消防団の方の勤務表の比較から、消防団の人が自分の仕事をもちながら活動していることに気付かせたい。 ◇消防団の場所や仕事から、消防団が地域の安全にとって大切な役割を果たしていることについて、交流しながら考えさせたい。
-------------------	--	---

	C：消防署の人だけでは、火を消せないからじゃないかな。 C：消防団の地図を見ると、消防署よりも多いから、火事が起きたときにすぐに火事現場に向かえそうだね。 C：地域の人のことをよく知ってるから、救助がしやすいんじゃないかな？ ○消防団で活動している方の思いについて考える。 T：実際に消防団の人に聞いてみましょう。 (インタビューを流す) T：インタビューを聞いて、わかったことは何ですか。 C：消防署だけではなく、消防団と消防署が協力して、火事から暮らしを守っていることがわかったよ。 C：消防団の人は、自分たちの地域を自分たちで守りたいという思いで働いているんだね。 C：ぼくの家そばにも消防団の屯所があるよ。消防団の人は、ぼくの家のことにも考えてくれているのだね。 C：ぼくたちも、火事を防ぐためにできそうなことは何かないかな。	◇消防団の方のインタビュー資料から、自分の地域を自分たちで守り、地域の困っている人のために働きたいという思いにふれさせたい。地域の人の支えによって暮らしの安全が守られていることを考えさせたい。
まとめ・発展 (5分)	○学習のふり返しを行う。 T：消防団の人がどのような仕事をしているのかについてわかったこと、消防団の人の思いについて考えたことをノートに書きましょう。	◇本時の学習をふり返し、消防団の人の活動や思いについてノートに書かせる。 ◆ノートの記述から、「消防団員の人々の活動や自分の地域を自分たちで守りたいという思いについて考えることができたか」を評価する。 (思・判・表／ノート)

7. 備考

【成果と課題】

- ◎消防署の学習後に、消防団に焦点をあてた授業を位置付けることで、災害に備え守るための組織的な連携や、関係機関と地域の協力が重要であるといった「共助」の考え方を深めることができた。
- ◎消防団は、児童は目にする機会があっても内実はとらえていない場合が多い。「児童が目にはしているけれども、実は見えていない。」という社会科の教材として、学ぶ価値の高いものであった。
- ◎消防署と消防団の二つの組織を比較しながら授業で扱うことによって、資料を比べながら読み取る力を高めることができた。
- ▲消防団の必要性を話し合う場面において、児童がとらえやすいように、検証資料として消防署の方のインタビューや話をまとめた文章資料などを準備しておけばよかった。